

サンディエゴより

一中嶋 嶺雄

リリース

松本の郊外・神田坂下北山にある私の山荘の名を冠したリレー・コラム『望岳山荘にて』を本紙に時折り書かせていただいていたのに、このところ暫くはつい御無沙汰してしまっただけ。前回は劇団四季の「李香蘭」松本公演に寄せて書いたもので、十一月下旬だったが、ちょうどその頃から私は、十カ月間の予定で米国のサンディエゴに来て住んでいる。カリフォルニア大学サンディエゴ校の国際関係・太平洋研究大学院(の

raduate School of International Relations and Pacific Studies)に客員教授として招かれ、Chinese Foreign Policy and Asian International Environment(中国の外交政策とアジアの国際環境)と題する講義を受け持っているのだが、早いものでまだ二カ月が過ぎてしまった。

昔から米海軍の根拠地としても知られるサンディエゴは、今夜もTVが洪水の被害を報じていたメキシコ最北の都市ティファナと国境を隔てて隣接するアメリカ西海岸南端の大きな都市で、最近はいくつかの企業やカリフォルニア大学サンディエゴ校を中心とした新興の産業・学園都市として発展してきた。またスケールの大きな海岸線と海の美しさ、ワイルド・アニマル・パークやシー・ワールドなどによる観光地としても有名だ。実際、海岸の崖の上から真っ赤な夕日が沈み行くときの、百八十度の視界一杯に広がる大海原を見ていると、水平線が明らかに湾曲していて、地球は本当に丸いのだと実感させられる。サンディエゴのラ・ホーヤ(La Jolla)一帯はアメリカ有数の保養地・高級住宅地でもあり、日本人に馴染みの深い故丘・ライシャワー教授(元駐日大使)は、この地でその生涯を開



故郷の香り

くと、水平線が明らかに湾曲して、地球は本当に丸いのだと実感させられる。サンディエゴのラ・ホーヤ(La Jolla)一帯はアメリカ有数の保養地・高級住宅地でもあり、日本人に馴染みの深い故丘・ライシャワー教授(元駐日大使)は、この地でその生涯を開

く見える。海の向うが日本なのだと思うが、あかす眺めてしまふこともしばしばだが、サンディエゴの自然に接していると、信州の、とくに松本平の自然のたまたま、つまりあの独特の故郷の香りがとても懐かしくなってくる。こちらの風景には、青い海あり、

なく異なっていて、一見晴れやかで雄大ではあるけれど、きめのこまやかさに欠け、情緒が感じられない。言うてみれば、サンディエゴの自然は俳句の世界ではないのだ。やはり私にとって

以上を報告させていただいたような次第なので、ここ当分は、(望岳山荘にて)に代えて(サンディエゴより)を、折りに触れてお届けできればと思っています。

ことを感じ始めていたとき、『市民タイムス』から先の私の文章のファックスが届いた。サンディエゴで最初に受け取った予期せぬファックスだったのでも嬉しかったけれど、その喜びは、この一枚のファックスが思いがけず故郷の香りを伝えてくれたからでもあったような気がします。

(カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院客員教授) 松本市出身